



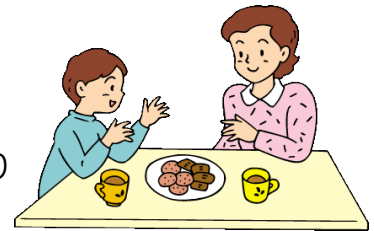
大すきいっぱい土の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和4年6月27日
土井首小学校
文責：校長 江原芳樹
第6号

遅い梅雨がはじまりましたが、今週末からは7月です。これから夏休みに向け、一学期の仕上げ、まとめをする時期になります。子どもたちが登校するのも今日を含めて17日間です。そのうち終業式を含みますので、実質の学習時間は16日ということになるでしょう。一学期に何ができるようになったのか、何がまだ不十分で引き続き努力を必要とするのか、一人ひとりが自分の一学期を振り返り、二学期の目標へとつなげていく大切な時期です。

ご家庭でも、できるようになったこと、まだ十分とは言えないことお子様と話題にさせていただき、この一学期を親子で振り返っていただきたいと思います。



土の子の心を見つめる教育週間が終わりました

3年ぶりの土曜授業を含め、「土の子の心を見つめる教育週間」を予定通り実施することができました。保護者の皆様には、授業参観・学級懇談会、土曜授業と多くの参観をいただきありがとうございます。

コロナ渦の生活が3年目となり、教育活動への制限が継続していますが、こうして少しずつこれまでの暮らしが戻ってきている実感です。

さて、教育週間のスタートに当たり、6月20日（月）の全校朝会で子どもたちに次のような詩を提示しました。この詩は、私が担任時代にもった子どもがつくった詩です。不思議な詩だけど、思わず考えさせられるものです。

わたしの「いのち」はだれのもの？

わたしを産んでくれたお母さんのもの
わたしを産んでくれたお父さんのもの
いつも見守ってくれる家族のもの
人間を創造した神様のもの
それとも……

わたしの「いのち」

わたしの「いのち」は、わたしのものだと考えていた私にとって、この詩に対する明確な答えを見出せませんでした。

子どもたちに同じように問うと、多くの子どもたちは「わたしのもの」と答えます。それでいいのだと思うのですが、少し視点を変えて、「いのちのバトン」で考えてみます。

わたしの「いのち」が今ここにあるということは、わたしに「いのち」をつなげてくれたお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんたちが、子どもを産んで育てるまで間違いなく生きていたという証拠です。そうやって20代繋げて考えると200

万人以上の方が、子どもを産んで育てられる年齢まで生きていたことになります。現代医学が発達しても、200万人以上の方が一人も欠くことなく大人になるの確率は0%だそうです。こうして考えてみると、次のような詩に対する答えを見出しました。

わたしの「いのち」は、わたしのものだけど、わたしだけのものではない。だから、こ

の「いのち」をいかに使うか、一人ひとりが責任をもつ必要がある。

「いのち」のつながりによって今ある私の「いのち」を価値ある「いのち」に出来る生き方を問うていきたいと考えます。

22日（水）は、ブックフレンドの皆さんによる「読み聞かせ」でした。今回も動画視聴という形でしたが、「読み聞かせ」がもつ子どもたちを引き付ける力を感じました。

どの学年の子どもたちも集中し聞き入っているのです。

こうした集中できる時間は、子どもの情緒を安定させると言われます。ぜひご家庭でも、ゆっくりとした時間を活用し「読み聞かせ」に挑戦してみてください。



土曜授業では、各学年、保護者の皆様と一緒に様々な活動に取り組みました。

1・2年生は「親子七夕飾り」、3年生は「安全マップづくり」、4年生は「高齢者疑似体験」、5年生は「平和キャンドルづくり」、6年生は「土井首地区のごみ拾い活動」でした。暑い中、ご参観、ご協力いただきありがとうございました。



親子七夕づくり



安全マップづくり



高齢者疑似体験



平和キャンドルづくり



地域ごみ拾い活動

夏休みの登校日について

今年の夏休みの登校日は、8月9日（火）だけです。平和集会を中心とした登校日となります。例年、8月21日前後に2回目の登校日がありましたが、今年からありません。夏休みの課題は、タブレットを活用した課題やプリントなど、それぞれが責任をもって取り組まなければいけません。ご家庭での確認をお願いします。

《校長室散歩道 R4 版 No.6》

「どうして勉強しないといけないの?」と、子どもに問われたとき、あなたはどのように答えますか?

このテーマは、昔から大人を悩ませてきたテーマの一つです。「決まっているから。」「当たり前のことを聞くなよ。」と言っても、子どもは納得しませんし、一層不信に思うものです。高学年になると、「大人はズルい!」とさえ感じてしまいます。

私は、「これが正解だ。」とは思っていませんが、こう答えるようにしています。

「勉強は、あなたが将来なるべく自由に、なるべく自分らしく生きるために必要なことです。だから、辛いことが多くあるかもしれないけど、がんばって乗り越えて欲しいと願ってます。」

「勉強は将来の自分のため」ということを私たちはどう語れるのか、問われる力です。

答えはそれぞれの大人が自分の経験を基盤にもっていることでしょう。ときどきは、こうした子どもの問いに、自分の答えを確かめてみるのもいいのではないかと考えています。